

<研究ノート>

小説におけるオノマトペの使用特徴  
—ミステリー小説に焦点を当てた予備的調査—  
**Characteristics of Onomatopoeia Usage in Novels  
- Preliminary Research Focusing on Mystery Novels -**

黄 慧  
Hui Huang

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本研究ではミステリー小説に使われているオノマトペの特徴を明らかにすることを目的としている。ミステリー小説では、1 ページ (約 700 字) 当たり、約 1 語のオノマトペが使われている。調査対象となった 2 冊の小説に共通するオノマトペは約 15% である。上位の使用頻度を示すオノマトペは ABAB 型、A ッ B リ型、AB リ型があり、2 冊の小説ともほぼ同じ傾向がみられた。低頻度のオノマトペの形態的パターンは全部で 28 種類にも及び、かなり多岐にわたることが分かった。ミステリー小説においても、様態副詞として用いられるオノマトペが最も多く、結果副詞や程度副詞として用いられるものは非常に少ない。ミステリー小説では、新しいオノマトペが作られることは稀であることもわかった。最後に、今回の予備調査の結果、使用されているオノマトペの特徴は、作家による個人差も要因の一つであることが考えられる。

**Abstract:** This paper investigates the use of onomatopoeia in mystery novels. It finds that there is roughly one onomatopoeic word per page (700 characters) in these novels. Common onomatopoeia between two novels of the survey are about 15%. The most frequently used onomatopoeic forms are of the ABAB, AQBri, and ABri types, seen in both novels and almost the same trends were observed in both cases. The morphological patterns of less frequently used onomatopoeia extend to as many as 28 types, indicating a wide variety. In mystery novels, onomatopoeia are mainly used as adverbs of manner and very few as others. It's rare for mystery novels to create new onomatopoeia. Finally, this preliminary research suggests that individual differences among authors are one of the factors in the characteristics of onomatopoeia used.

**DOI:** <https://doi.org/10.15026/0002000368>

**キーワード:** オノマトペ, 擬音語, 擬態語, 使用実態, ミステリー小説

**Keywords:** Onomatopoeia, Mimetic words (words that imitate sounds, words that describe conditions or states), usage, frequency of use, Mystery novel

## 1. はじめに

オノマトペは、漫画や小説、絵本などの文学作品のみならず、広告のキャッチフレーズやレシピなど、私たちの日常生活において様々な場面で目にすることがある。それぞれの分野で使われているオノマトペは描写するものが異なることから、それぞれ特徴をもっていることが予想される。そのため、今後は小説のジャンルごとに使用されているオノマトペの特性を詳細に検証していく必要があると思われる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

小説のジャンルごとに使用されているオノマトペの傾向を調査する一環として、まずミステリー小説におけるオノマトペの使用傾向を検討することにする。本研究はミステリー小説におけるオノマトペの使用実態を明らかにするための予備的調査である。

## 2. 先行研究

2.1 でオノマトペの定義および分類について概観し、2.2 で各分野別に使用されているオノマトペを扱った先行研究を見ていく。

### 2.1. オノマトペの定義および分類

丹野 (2005) は、以下のように述べている。

オノマトペとは「音による命名、音自身が名になる」という意味がある。このような意味合いからすると「あるもの、ある現象」を音によって支持すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま写すこと、と定義することができる。オノマトペの狭義の定義としては、音響世界の模写を主とする擬音語、音響世界の声を模写する擬声語がある。また広義の定義としては、事象の状態を象徴する擬態語である。オノマトペを日本語で言えば、「擬声・擬音、写生語、象徴語、擬容語、擬情語、擬態語、象徴音、語音象徴、声喩、音声象徴、音画など」という。

(丹野 2005: 17-19)

擬音語と擬態語は様々な名称で呼ばれているが、「オノマトペ」という用語がそれらを総称する共通認識がある。これまでの研究では、「擬音語」や「擬態語」<sup>1</sup>の表現が一般的であったが、近年は「オノマトペ」という用語を使用する研究者が増えている。本研究でも「オノマトペ」という用語を使用する。なお、先行研究を引用する際には、それぞれの研究で使用された用語をそのまま使用することにする。

小野、武田、川崎 (2021) は、3人の研究者が資料から認定<sup>2</sup>したオノマトペを抜き出し、その結果を比較した。この研究によれば、絶対的な一致率は高いものの、各研究者の視点から認定されるオノマトペには一定の差異が生じている。以下、詳細な考察結果を表1に示す。

表1：小野、武田、川崎 (2021) における調査結果

	冴え冴え	だんだん	ちょっと	やっと	もっと	しげしげ	ずうっと	がさがさ
A	×	○	○	○	○	○	○	○
B	×	×	×	×	×	○	○	○
C	×	×	×	×	×	×	×	○

(小野、武田、川崎 2021 : 120)

上記のオノマトペ研究者3名による分類結果、オノマトペの認定はAタイプ (異なり語数 69語)、Bタイプ (異なり語数 58語)、Cタイプ (異なり語数 56語) まで13語の差がある。角岡 (2007) では、

<sup>1</sup> 金田一 (1978) は、擬音語と擬態語をさらに、「擬音語 (音を表すもの)」、「擬声語 (声を表すもの)」、「擬態語 (状態を表すもの)」、「擬容語 (人の様子を表すもの)」、「擬情語 (人の感情を表すもの)」と分類している。

<sup>2</sup> 3名のオノマトペ研究者がそれぞれ基準A、基準B、基準Cに沿って同一資料からオノマトペを抽出する作業を行っている。

和語や漢語<sup>3</sup>などのオノマトペを考慮に入れ、「真正オノマトペ」と「擬似オノマトペ」、「かな擬似オノマトペ」という用語も使用している。先行研究を概観すると、坂本（2019）でも述べているように、「実はオノマトペかそうでないか、どこまでをオノマトペとするか、の区別も難しく、しばしば研究者の間でも議論になる。（P8）」とされることが多いようである。

## 2.2. オノマトペの音韻的・形態・統合的特徴について

オノマトペ音韻・形態的特徴については、主に田守、スコウラップ（1999）、浜野（2014）を参照することにする。両研究によれば、日本語のオノマトペは、1モーラを語基にもつCVタイプのもの、2モーラを語基にもつCVCVタイプのもの<sup>4</sup>と2つのグループ<sup>4</sup>に分けることができる。

表 2：オノマトペの音韻形態（田守、スコウラップ 1999：20-25 を表にまとめたもの、用例は一部のみ）

CV タイプ			CVCV タイプ		
1	CV	つ, ふ	6	CVCV	がば, ぐい, びた, ぶい, そよ
2	CVQ	ピッ	7	CVCVQ	ばたっ, ぱらっ, ぐさっ, ぼきっ
3	CVN	ピン	8	CVCVri	ばたり, ぱらり, ぐさり, ころり
4	CVV	ピー	9	CVCVN	ばたん, ぼとん, ごろん, こつん
5	上記の 反復形	ピッピッ, ピンピン, ピーピー	10	CVQCV	どっか, はっし, すっく
			11	CVNCV	むんず, ざんぶ
			12	CVQCvri	ばったり, ぐったり, にっこり
			13	CVCVN	ぼんやり, ふんわり, こんがり
			14	CVCVCVCV	ばたばた, きらきら, にこにこ
			15-23	その他の形態 および複合形	がさごそ, どたばた, ちやほや, が たびし, そそくさ, すたこら, ぐさ りぐさり, どんきんどんきん, ちらりほ らり, すっからかん, すってんころ り, とんちんかん, つんつるてん

浜野（2014：6-7）は、CVタイプの語根に「っ／ん／ー」が伴って使用されることについて、CVタイプの語根は語根と語尾の間に多くの場合意味的な関連があり、CVCVタイプの語根とは異なり、構成要素間の独立性が弱いと述べている。さらに、CVタイプの語根を含む表現のほとんどが音や単純な運動と模倣的な関係にあり、言語的な分析性が一般的な語彙やCVCVタイプに比べて弱いとしている。こ

<sup>3</sup> 漢語由来のオノマトペについては、中里（2001）の研究がある。中里（2001）では、以下のように述べている。「一々」型のは限られた文脈で使われているうちに、その後のイメージが定まり、言語音と指示内容に有縁性を感じさせるようになる可能性がある。さらに漢字ではなく仮名書きがされるようになれば、漢字の表意性が薄れ、音のイメージで使用される「オノマトペ」になると判断される。一方、「一然」型は、振り仮名と併用されたために、和語の意味が先行し、オノマトペらしさを感じさせなかったのだろう（中里 2001: 564-565）。

<sup>4</sup> 各研究者によってCVタイプをA型、X型と呼び、CVCVタイプをAB型、XY型と呼ぶこともある。本研究では先行研究を引用する際には、先行研究に書かれた用語をそのまま使用することにする。しかし、収集したデータを分析する際にCV表記にすると長くて読みにくくなるため、主に吉永（2019）のA型、AB型のような表記を用いる。なお吉永はオノマトペ標識の特殊拍の表記に記号を用いらずに、促音（ッ）、撥音（ン）、長音（ー）、リ語尾（リ）を使用している。例：A ッ, Aー, AB ン, A ン B リなど。

れにより、CV タイプと CVCV タイプのオノマトペには違いがあり、文学作品で使用されるオノマトペの傾向にも影響を与える可能性があると考えられる。

オノマトペの統語的特徴としては、田守、スコウラップ (1999)、浜野 (2014) などが挙げられる。田守、スコウラップ (1999) によれば、オノマトペは副詞的用法 (例: ゆっくりあるく)、動詞的用法<sup>5</sup> (例: にこにこする/ぼろぼろになる)、形容詞・形容動詞的用法 (例: きらきらのな星, 疲れてへとへとだ)、名詞的用法 (例: ぶつぶつができた)、複合語用法 (例: ピリ辛) だけでなく、「一めく (例: きらめく)」、 「一つく (例: いらつく)」、 「一ける (例: よろける)」などの派生用法も存在する。

### 2.3. 様々な文体で使用されているオノマトペ

日本語のオノマトペは様々な分野で使用されており、その使用頻度および使用傾向に違いがあるということが報告されている (玉岡他 2011, 田守 2012, 夏目 2013, 深田 2013, 星野 2014, 渡辺・中村 2012, 赫楊 2017, 隅田 2019, 陳萍 2022, 吉崎 2023)。

星野 (2014) の研究によれば、グルメ記事で使われるオノマトペは食品 (お菓子・飲料を含む) や食べ方、料理場面を描写するために使用されている。渡辺・中村 (2012) の研究によれば、料理レシピに多く登場するオノマトペは、料理そのものを表現するオノマトペと、調理動作を表現するオノマトペに分けることができる。さらに、レシピの「タイトル」、「説明文」、「料理手順」それぞれに使われるオノマトペにも違いがあることが分かった。吉崎 (2023) の研究によれば、子供の歌には擬音語の方がより多く用いられ、研究対象としている擬情語は約 11% と最も少なかっただけでなく、限られた擬情語 (「にこにこ」や「ほかほか」など比較的やわらかい響きを持つもの) が多いと報告されている。陳 (2023) は、反復形を除いて漫画で使われている擬音語の語尾が「っ、一、ん」が多いことを指摘している。その要因として、漫画に描かれた動きの緊張感やスピード、動作の余韻を強調する、または描写している様態が時間的に長く持続していることを表すなど、表現の効果を高めるために語末に特殊拍を使用していると分析している。

玉岡、木山、宮岡 (2011) は、新聞と小説のコーパス<sup>6</sup>における ABAB 型のオノマトペ (28 語) と動詞の共起パターンについて考察した。この研究によれば、コーパスの種類の違いがオノマトペと動詞の共起パターンにおいても顕著であり、小説の方がオノマトペと動詞の共起パターンが多様であると結論づけている。

以上、先行研究を概観した。オノマトペの形をしているものの、オノマトペであるかどうか判断が難しいものがあること、オノマトペはその他の語彙群とは違う音韻・形態的特徴をもっていること、そして統語的には様々な品詞として用いられていること、最後に様々な分野で使われているオノマトペの使用傾向および特徴に違いがあることが分かった。

### 3. 研究対象・研究方法

研究対象とするミステリー小説は、できるだけ新しいもの、より多くの読者に読まれているものを考慮し、「このミステリーがすごい!」のランキングを参照することにした。それぞれの作家による個人差も考慮する必要があるため、「このミステリーがすごい! 2020 年版」と「このミステリーがすごい! 2021

<sup>5</sup> 本研究では、「にこにこする」のように「オノマトペ+する」になるものと、「ぼろぼろになる」のように「オノマトペ+なる」になるものをそれぞれ「する動詞」、「なる動詞」と呼ぶことにする。

<sup>6</sup> 玉岡、木山、宮岡 (2011) が研究対象としている新聞は、毎日新聞の 1991-1999 年の 9 年間の記事をまとめたものであり、小説は、青空文庫における現代語で書かれた作品である。

年版) 国内編からそれぞれ1冊ずつ、計2冊<sup>7</sup>を選んだ。対象とした2冊の小説とも電子書籍のkindle版および紙媒体の両方を使用している。なお出版年およびページ数などは、紙媒体の情報を使用している。

表3：研究対象のミステリー小説

著者	小説名	出版年	出版社
相沢沙呼	『medium 霊媒探偵城塚翡翠』(以降『霊媒探偵』と呼ぶ)	2019	講談社
阿津川辰海	『透明人間は密室に潜む』(以降『透明人間』と呼ぶ)	2020	光文社

用例の収集手順としては、まずkindleアプリで小説を読み進めつつ、オノマトペの用例にハイライトをつけていき、1冊読み終わったところでハイライト部分を表示し、オノマトペの用例部分を手入力<sup>8</sup>した。

2.1でも見てきたように、オノマトペの認定および分類は非常に困難である。このため、本研究ではオノマトペ辞書<sup>9</sup>を参照し、オノマトペであるかどうかを判断することにする。詳細については後述する。

漢語由来のオノマトペに関しては、中里(2001)で言及している「一然」型のもは収集せず、「一々」型のもはオノマトペとしてカウントすることにする。今回オノマトペとして収集した漢語由来のものは、「段々(だんだん)、点々(てんでん)、堂々(どうどう)、悠々(ゆうゆう)」の4語である。小野、武田、川崎(2021)では、オノマトペを認定する3つの基準ともに感動詞を除外している。

(1) 前略・・・小十郎は う うと<sup>10</sup>うなつて谷をわたつて帰りはじめた。

(小野、武田、川崎 2021 : 118 より)

小野、武田、川崎(2021)で示されている認定基準(表1参照)のうち、基準Cで対象外としている「だんだん」、「ちよつと<sup>11</sup>」、「しげしげ」、「ずっと」の4語およびその他の研究でオノマトペとして認定されている「きつと」はすべてオノマトペ辞書に載っているため、オノマトペとして扱うこととする。なお、「やつと」、「もつと」の2語およびその他の研究でオノマトペとして認定されている「やっぱり」

<sup>7</sup> 筆者は、日本語学習者でもあり、研究の出発点は中国人日本語学習者が日本語のミステリー小説を読む際にどのようなオノマトペを理解すべきかという点であった。そのため、「このミステリーがすごい！」の人気ランキング上位の小説かつ中国語に翻訳されている作品を選んだ。本研究では、日本語のミステリー小説におけるオノマトペの使用実態に焦点を当てている。中国語の翻訳本との比較対照は次稿に譲る。

<sup>8</sup> 用例のデータ化はすべて手入力で行っている。Kindleアプリでハイライトをつけた部分は本来エクスポートでき、そのまま電子データになるはずである。しかし、著作権の制限を受け、今回のように用例が大量にある際には、文字数が既定の数を超えてしまうため、表示されるのはごく一部の用例のみであった。

<sup>9</sup> 本研究では、オノマトペの辞書6冊を参考にしている。詳細は参考文献リストを参照する。

<sup>10</sup> (1)のような唸り声である「うう」も感動詞として認定している。また、人の声ならば感動詞、熊の声ならばオノマトペと分けることが可能であるとしながら、感動詞なのかオノマトペなのかは判断が難しい問題であると述べている。須藤(2008)、VUONG(2013)によれば、感動詞の研究は数多くあり、感動詞の認定が難しい。そして感動詞を音韻的特徴あるいは意味的特徴などによって分類しているとしている。これらの研究で取り上げている分類には、「あつ」、「ふうん」や「ほう」なども含まれているが、本研究ではいったんこれらもオノマトペの音韻的特徴を持っているものとしてデータ収集を行っている。

<sup>11</sup> 「ちよつと」に関しては、6冊のオノマトペ辞書とも見出し語としての記載はないが、浅野の辞書に、「ちよつくら」の同類語として記載され、次のような記述がある。「ちよつくら」:「ちよつと」の俗語的表現である(浅野1978:188)。そのため、本研究でも「ちよつと」を研究対象としている。

はオノマトペ辞書に載っていないため、除外することにした。

最後に、田守、スコウラップ（1999）、浜野（2014）で言われているオノマトペから派生したものも収集対象としている。

このような基準を設けた結果、2冊のミステリー小説から、収集したオノマトペの使用例は全部で803語で、異なり語数は、306語である。

#### 4. 考察

4.1でオノマトペの使用頻度について、4.2でミステリー小説に使用されているオノマトペの音韻・形態的特徴について、4.3でオノマトペの統語的特徴について見ていくことにする。

##### 4.1. ミステリー小説に使用されているオノマトペの使用傾向

ここでは、ミステリー小説に使われているオノマトペの使用頻度、文字表記、出現箇所について順に見ていく。

###### 4.1.1. ミステリー小説に使用されているオノマトペの使用頻度

2冊のミステリー小説から収集したオノマトペは計803語である。ここには、派生形32語（異なり語数14語）も含まれている。以下、詳細を表4に示す。

表4：ミステリー小説から収集したオノマトペ

作品名	ページ数	オノマトペ数 (延べ語数)	オノマトペ数 (異なり語数)
『霊媒探偵』	380	439	169
『透明人間』	352	364	194
合計	732	803	<u>306</u>

表4に示されているように、『霊媒探偵』では439語のオノマトペ、『透明人間』では365語のオノマトペが使用されている。『霊媒探偵』の場合、1ページ（700字<sup>12</sup>）あたり約1.15語、『透明人間』では1ページ（700字）あたり約1.03語のオノマトペが使用されている。平均的に1ページ（700字）に約1語以上のオノマトペが使用されていることが分かる。

異なり語数から見ると、『霊媒探偵』は439語中、異なり語数が169語であり、一方で『透明人間』は365語中、異なり語数が194語である。2冊の小説に使用されているオノマトペの異なり語数は306語である。異なり語数と延べ語数の割合からわかるように、『透明人間』の方が『霊媒探偵』よりも使用しているオノマトペにバリエーションがあることがわかる。

同じくミステリーを題材にしている小説であるため、使用されるオノマトペには共通点があると推測される。それぞれの小説に使われたオノマトペの異なり語数を確認したところ、306語中、共通するオノマトペは46語<sup>13</sup>であり、全体の約15%を占めている。今回の予備調査では調査した対象の小説が2冊のみであるため一概には言えないが、同じミステリーを題材としていても作家によって用いるオノマトペには個人差があることがうかがえる。以下、表5に2冊の小説に共通して使用されているオノマトペ

<sup>12</sup> 文字数とページ数から平均的に1ページ当たり約700文字として換算している。

<sup>13</sup> オノマトペから派生された動詞「ざわめく」、「おどける」も小説2冊ともに使用されている。完全重複するものは全部で46語である。

を示す。

表 5：2冊の小説に共通するオノマトペ

1	あっさり	10	こっそり	19	そろそろ	28	にやにや	37	びっくり
2	おずおず	11	さっぱり	20	ちゃんと	29	にやり	38	ひよっと
3	おどおど	12	じっくり	21	ちょっと	30	ばたばた	39	ふと
4	がちがち	13	しゅんと	22	ちょっぴり	31	ばちくり	40	ぶんぶん
5	きちんと	14	すっと	23	ちらり	32	はっと	41	べったり
6	きつと	15	ずっと	24	とんとん	33	ぱっと	42	めちやくちや
7	きよとん	16	すっかり	25	どんどん	34	はっきり	43	もじもじ
8	ぎりぎり	17	そっと	26	にこやか	35	ばりばり	44	ゆっくり
9	くすくす	18	ぞっと	27	にっこり	36	ぴくりと	45.46	おどける・ざわめく

表 5 に示されているオノマトペのうち、A ッ B リ型が最も多く、11 語（約 23%）が共通している。AB リ、ABC リ、A リ A リを含めると全部で 17 語がリ語尾を持つオノマトペである。さらに、A ッ型のオノマトペが 9 語（約 20%）、ABAB 型が 8 語（約 17%）用いられている。

ファッション雑誌と料理誌におけるオノマトペの実態を調査した赫楊（2017）によると、両誌において A ッ B リ型のオノマトペが最も多く用いられ、次が A ッ型、ABAB 型の順であった<sup>14</sup>。なお、赫楊（2017）の研究では使用頻度を調査しているため、異なり語数について触れていない。本研究で扱った小説においては A ッ B リ型のオノマトペの使用例が 114 例で全体の約 14%、A ッ型のオノマトペの使用例は 211 例で全体の約 26%、ABAB 型のオノマトペの使用例が 148 例で全体の約 18%を占めている。ミステリー小説においては A ッ B リ型のオノマトペの使用率はファッション雑誌や料理誌に比べて、使用頻度がかなり低いことが分かる。本研究で扱った用例のうち、A ッ型が最も多いのは「きつと（26 例）」と「ちょっと（65 例）」が占める割がかなり高いためである。さらに 211 例中 91 例（約 43%）が「ちょっと」と「きつと」の用例であった。詳細は 4.2 で詳しく見ていく。

赫楊（2017）の考察において使用頻度が上位にある A ン B リ型のオノマトペは、ミステリー小説では 2 冊に共通するオノマトペに含まれていない。『透明人間』、『霊媒探偵』から収集できた A ン B リ型のオノマトペは全部で 13 例（異なり 9 語）のみであり、約 1.6%しか占めていないことが分かった。A ン B リ型のオノマトペの異なり語数（9 語）の詳細を（2）に示す。

（2）9 語：あんぐり、うんざり、しょんぼり、じんわり、のんびり、ふんわり、ほんのり、ぼんやり、こぢんまり（A ン B リの異形としてカウント）

#### 4.1.2. ミステリー小説に使用されているオノマトペの文字表記

使用されているオノマトペの文字表記は平仮名、片仮名、漢字の 3 種類である。全体的に平仮名表記が 690 語で約 84%を占め、片仮名表記が 93 語で約 12%しか占めていないことわかる。以下、表 6 に、

<sup>14</sup> ファッション雑誌と料理誌におけるオノマトペの使用頻度は、A ッ B リ型がそれぞれ 37.61%と 42.32%、A ッ型がそれぞれ 9.60%と 18.74%、ABAB 型が 7.00%と 13.47%、A ン B リ型がそれぞれ 4.15%と 7.58%である。

文字表記の詳細を示す。

表 6：ミステリー小説におけるオノマトペの文字表記

作品名	平仮名（語）	片仮名（語）	漢字（語）
『霊媒探偵』	424	6	9
『透明人間』	266	87	11
合計	690	93	20

赫楊（2017）によると、同じくファッション雑誌であっても年齢層や男性向け、女性向けなどのジャンルによって文字表記に違いがある。上記に示している用例数から分かるように、ミステリー小説においても今回の2作品を見る限り、作品によって文字表記に違いがあることが分かる。

『霊媒探偵』においては、片仮名表記のオノマトペの使用頻度が異常に低く、わずか6語のみであった。多くの先行研究で言及されているように、音を描写する擬音語は片仮名、擬態語は平仮名で表記されることが一般的である。しかし、(3)、(4)で示しているように、『霊媒探偵』でカタカナ表記されている6語のオノマトペのうち、擬音語は1語も確認できていない。

(3) 最近では友人が増えたようで、スマホを眺めながらニヤニヤしていることもあるが、共に遊園地に行くほどの仲ではなかったろう。

（『霊媒探偵』）

(4) 髪はボサボサで、寝間着姿は非常にダサく、目元が赤く腫れている。

（『霊媒探偵』）

『透明人間』の片仮名表記には、(5)、(6)のように音を描写する擬音語、(7)と(8)のように様子を描写する擬態語のもの両方が確認できた。

(5) ぼくも思わず息が詰まった。次の瞬間、扉の向こうからかすかに、グシャッという音が聞こえた。

（『透明人間』）

(6) 彼は立ち上がって扉の前に行く。扉を拳でドンドンと叩き、「助けてくれ！」と数度叫ぶ。

（『透明人間』）

(7) 「前略。鼻がツーンとするのをこらえて、無理に声を出そうとすると、そうなるんですよ」

（『透明人間』）

(8) さっきまでのピリリとした緊張感がどこかへ吹き飛び、どうにも締まりのない空気になった。

（『透明人間』）

『霊媒探偵』では「にや系」のオノマトペが6語使われているが、1例以外は平仮名表記になっている。これに対し、『透明人間』の場合は「ニヤニヤ」「ニヤリ」「ニヤける」など「にや」系16例すべてが(9)のように片仮名で表記されている。そして、「はっとする」は6例すべて、「カッとなる／する」は5例すべて、「ムッとする」も4例すべてが、(10)、(11)、(12)のように片仮名表記になっている。

(9) 「それでもう一つ分かったことがあるぞ」6番がニヤニヤと笑っていた。

（『透明人間』）

(10) おかしな点？オタクたちの議論が物証に及んだので、ハッと心を惹きつけられた。

『透明人間』

(11) 「前略 カッとなって殴りつけたのなら、殴った後、正気に返って・・・ 後略」

『透明人間』

(12) 6 番は「恥じらいと言いますが、教師だから外聞を憚っているだけでしょう」とムツとしたように言い返した。

『透明人間』

同様に、A ッ型のオノマトペであっても副詞的用法としての用法しかもっていない「きつと」、「ちょっと」、「ずっと（ずうつと含む）」は、平仮名表記が一般的であり、今回の調査においても片仮名表記で用いられる用例は確認できなかった。「ハツと」、「カッと」、「ムツと」のように A ッ型のオノマトペが直接するを後続させて使われるものは片仮名表記にされやすいのではないかと推測した。「は」は助詞としても使われて、「か」は疑問詞として文末に使われることがある。もし1文字のみのこれらを平仮名表記にすると、「わたしははつとした」のように非常に読みにくくなることが想像できる。しかし、『霊媒探偵』では「はつと」の使用例が6例あるが、すべて(13)のように平仮名で表記されている。これは作家個人の好みによるものであるかどうかを今後ほかの小説における使用例も見ながら検討する必要がある。

(13) 翡翠と名乗る霊媒に促されて、結花ははつとしたようにソファへ腰を下ろした。

『霊媒探偵』

先ほど3の研究方法でも述べたように、本研究では漢語由来のオノマトペも研究対象としている。漢語由来のオノマトペは(14)、(15)、(16)のように反復形のものである。オノマトペから派生した動詞「きらめく（煌めく）」は全部で5例確認できたが、『霊媒探偵』でしか使われていないことが分かった。さらに、「煌めく」はすべて(17)のように漢字で表記されている。

(14) 玄関マットに点々と垂れたコーヒーの滴は、そのまま一階の女子トイレの方に延びている。

『透明人間』

(15) 堂々としていればいいのさ。ウェルカムドリンクのジュースに口をつけながら、俺は自分をなだめていた。

『透明人間』

(16) 悠々と語る翡翠を、香月は見下ろす。こいつは、なにを言っている？

『霊媒探偵』

(17) 翡翠の眼が、暗がりの中で妖しく煌めく。

『霊媒探偵』

以上、オノマトペの文字表記について見てきたが、本研究で取り上げた2作品から見る限り、平仮名で表記されることが多く、片仮名で表記されることは比較的少ないことが分かった。片仮名表されている93語中、26語（約28%）が「～という音」を伴った擬音語であることから、片仮名で音を表すことが多いという先行研究の考察結果を裏付ける結果となった。さらにオノマトペの表記は作家の習慣や好みに左右されることが多く、作家によってオノマトペの表記に違いがあることが分かった。

## 4.1.3. ミステリー小説に使用されているオノマトペの出現箇所

夏目 (2013) は漫画の背景に描かれたオノマトペについて詳しく考察を行った研究である。夏目 (2013) は「多くのオノマトペは漫画に描かれた、ただの言語記号ではない。それは同時に絵であり、造形である (P226)」と述べている。オノマトペは漫画の地の文、セリフ、背景の 3 つの部分に使われ、それぞれの部分で使われているオノマトペにも違いがあることが見て取れる。小説などの文学作品においてオノマトペは地の文とセリフの 2 つの部分に使用されている。ミステリー小説におけるオノマトペが地の文とセリフでどのように現れ、どのような違いがあるのかについて見ていくことにする。以下、表 7 に詳細を示す。

表 7: 地の文とセリフにおけるオノマトペの使用状況

作品名	地の文 (語)	セリフ (語)
『霊媒探偵』	294	145
『透明人間』	247	117
合計	544	259

表 7 から分かるように、本研究で扱った 2 冊のミステリー小説において地の文で使用されているオノマトペは 546 語で約 68% を占め、セリフで使用されているオノマトペは 257 語で約 32% を占める。個別作品から見ていくと、『霊媒探偵』の地の文に使われているオノマトペは 298 語で約 68% を占め、セリフに使われるオノマトペは、141 語で約 32% を占めている。『透明人間』の地の文に使われるオノマトペは 248 語で約 67% を占め、セリフに使われるオノマトペは 116 語で約 33% を占めている。個別作品における使用傾向も全体の傾向とほぼ同じであることが分かった。

地の文に使われるオノマトペが多い原因としては、(18), (19) のように主人公の様子や状態を表す擬態語表現はほとんど地の文で現れること、(20), (21) のように音を描写する擬音語はほとんどセリフではなく地の文で表現していることなどが考えられる。

(18) 「ご相談になりたいことというのは？」翡翠に問われ、おずおずと結花が話し始める。

(『霊媒探偵』)

(19) 「こんなところからはすぐに脱出しないといけない」カイトさんは力強く言い切った。その目はぎらぎらと輝き、使命感に燃えているように見える。

(『透明人間』)

(20) 「こうやって、多くの女性を願い続けてきたんでしょう……」美しい歯を、がちがちと鳴らしながら、彼女は気丈に言う。

(『霊媒探偵』)

(21) その時、聞き覚えのある足音がした。決意を秘めて踏み込む時の、緊迫をはらんだ足音。チッ、チッという腕時計の秒針の音。

(『透明人間』)

セリフに使われるオノマトペには (22) のような笑い声を描写する擬音語と、(23) の「ぎゅっとしてあげる」のような会話でよく用いられる擬態語がある。

(22) 「はは。美々香ちゃんも大変だったね」

(『透明人間』)

(23) 優しい掌だと思った。翡翠が言う。「ぎゅって、してあげます……」

『霊媒探偵』

セリフで用いられているもののうち、特徴的なのは副詞的用法の「ちょっと」である。「ちょっと」は全部で 65 例であり、そのうち 53 例がセリフの中で使用されている。「ずっと」に関しては 37 例中 23 例がセリフの中で使われており、セリフで用いられている割合は半数以上を占めている。(27) と (25) は地の文で用いられている「ちょっと」と「じっと」の用例である。

(24) 鏡を覗いて、顔を赤くする。「す、すみません、わたし、ちょっとお化粧を直しに——」

『霊媒探偵』

(25) 彼はどこかばつの悪そうな顔をして目をそらした。こんなところで知り合いに遭遇するとは思っておらず、ちょっと動揺しているのだろう。

『透明人間』

(26) 「わたしが、ほんものの雲媒だって、ずっと信じていらしたんですか--?」

『霊媒探偵』

(27) 翡翠の言葉の通り、死者の意識が停滞するというのなら、結花の魂はずっと死の瞬間のまま、その先に進むことがない。

『霊媒探偵』

以上、ミステリー小説に使われているオノマトペの使用状況および使用頻度について見てきた。ミステリー小説では 1 ページ (約 700 字) 当たり、約 1 語のオノマトペが使われていること、2 つの小説に共通するオノマトペはわずか約 15% ほどしかないこと、オノマトペの文字表記は作家による個人差があること、最後に造語性に関しては新しいオノマトペが作られることが漫画と比べてかなり少ないということなどが分かった。

#### 4.2. ミステリー小説に使用されているオノマトペの音韻・形態的特徴

ここでは、オノマトペの音韻的・形態的特徴について見ていく。本研究で扱った 2 冊の小説には A 型が 331 語で全体の約 41%、AB 型が 470 語で約 59% を占めており、全体的に AB 型が占める割合が A 型より高いことが分かった。その他の複合型はわずか 2 例のみであった。以下、詳細を表 8 に示す。

表 8: ミステリー小説におけるオノマトペのタイプ

作品名	A 型	AB 型	その他・複合型
『霊媒探偵』	174	263	2
『透明人間』	157	207	0
合計	331	470	2

田守、スコウラップ (1999) および吉永 (2019) を参考にして分類を行った結果、A 型から 23 パターン、AB 型から 22 パターンのオノマトペが確認できた。A 型のほうが AB 型より形態的パターンが多い原因の一つとしては、笑い声の描写が多いことがあげられる。笑い声は (28), (29), (30) に示しているように、「ふ」、「は」、「へ」を語基にかなりバリエーションに富んでいる。

(28) 大野は目を丸くして、しばらくわたしを見つめていた。フッ、と笑って、彼は言う。

『透明人間』

(29) 翡翠が、笑う。けたけたと、笑いだす。「ははっ、あはははっ、ははははははっ！」そんなふうに彼女が笑ったのを見るのは、初めてだった。

『霊媒探偵』

(30) 「ですが、実際のところ新聞報道やニュースだって、完全にシャットアウトは出来ないわけでしょう。それらしいアカウントを特定してうっかり見てしまうこともあるというものです。へっへっへ」

『透明人間』

複合型に関しては、田守、スコウラップ（1999）だけでなく様々な先行研究で取り上げられている形態的パターンがあるが、本研究扱ったミステリー小説においては使用頻度が非常に低かった。今回収集できた複合型の使用例は全部で3例のみである。(31)と(32)で示しているように、それぞれのAB型から語根のみを使って新しく組み合わせられたものである。「ふわとろ」は食材などを描写する際によく使われる「ふわふわ」と「とろとろ」を、「テヘペロ」は照れ笑いの「テヘッ」と舌をだす仕草「ペロ」を組み合わせた言葉である。

(31) 「前略 わたしも先生と同様に、社会不適合者と分類される人種なものですから、他人を慮って発言するのが苦手なだけなんです。悪気はあんまりありません。テヘペロです」

『霊媒探偵』

(32) 少しすると、そんな雰囲気を感じたかのように、料理が運ばれてきた。「うわあ、ふわとろですね」オムライスを前にして、翡翠が顔を輝かせた。

『霊媒探偵』

次にオノマトペの音韻形態とその使用頻度についてさらに詳しく見ていくことにする。以下、表9に2冊のミステリー小説から収集したオノマトペの形態パターンおよび使用頻度を示す。紙幅の関係上、上位10位までを示す。

表9：ミステリー小説におけるオノマトペの音韻形態と使用頻度

	『霊媒探偵』				『透明人間』			
	A型		AB型		A型		AB型	
1	Aッ	129 (18)	ABAB	96 (45)	Aッ	82 (19)	AッBリ	68 (26)
2	A	9 (1)	ABリ	61 (25)	AンAン	17 (8)	ABAB	52 (35)
3	Aン	7 (3)	AッBリ	46 (19)	Aン	16 (7)	ABリ	27 (13)
4	Aーッ	6 (2)	派生形	18 (17)	Aリアリ	10 (8)	ABッ	15 (14)
5	AンAン	6 (6)	ABン	13 (6)	AAA	4 (2)	派生形	13 (10)
6	AAA	4 (1)	AンBリ	7 (4)	AAAA	4 (1)	ABン	9 (4)
7	AAAA	4 (1)	ABッ	5 (4)	AAッ	3 (3)	AB	9 (7)
8	Aリアリ	2 (2)	ABCB	4 (3)	Aー	3 (3)	AンBリ	6 (5)
9	Aー	2 (2)	AッBラ	3 (1)	AA	2 (2)	ABCリ	3 (1)
10	AA	2 (1)	ABBBッ	2 (1)	AッAッ	2 (2)	ABCCC	1 (1)

(上位10位まで、括弧の中は異なり語数)

表9をみると、『霊媒探偵』と『透明人間』の両方でAッ型のオノマトペが最も多いことが分かる。

しかし、『霊媒探偵』ではA型, A型, Aン型の順になっており、『透明人間』ではA型の次に多く用いられているのがAンAン型, 次がAン型であることが確認できた。「ちょっと」が64例で最も多く使用されており, 次いで「ずっと」が37例, 「きっと」が26例の順になっている。(33)のような用例数が上位のもの以外にも, (34)のような「ぱっと」も7例使われている。

(33) 頭の中に食堂でのピュッフエのことが浮かぶ。どんなに豪華な料理が出るんだろう。こんな船だから, きっと美味しいものが出たんだろうな。

(『透明人間』)

(34) 初夏の陽射しを浴びて待っていると, 約束の時刻になり, 結花が改札から姿を現した。こちらを見つけた彼女は顔を上げて, ぱっと表情を明るくする。

(『霊媒探偵』)

使用頻度が低いのは(35), (36), (37), のような「きゅっと」, 「ぐっと」, 「ぞっと」などであるが, どれも3例未満である。辞書によれば「ぞっと」は「恐ろしさで身の毛がよだつさま, 極度の恐怖から, からだがふるえあがるような感じのするさまを表わす」とされている。このような意味合いからミステリー小説では頻繁に使用されるオノマトペであると推測していたが, 実際の使用頻度はわずか3語のみで非常に低いことが分かった。

(35) 翡翠が, 意を決したみたいに, きゅっと唇を結んで男を睨んだ。それから男の腕を振り払い, 大きく息を吐き出して, 捲し立てた。

(『霊媒探偵』)

(36) 体格の良い方は, ぐっと拳を握って突き出した。「変な素振りを見せたら, 即座に絞め上げる」

(『透明人間』)

(37) 「考えてみれば, 夫——いいえ, 内藤さんにとっては気持ちの悪いことかもしれないわね。一緒に住んでいた女が, いつの間にか別人に, それも知りもしない隣人に入れ替わっていたなんて……」「まあ, ぞっとする話でしょうね」

(『透明人間』)

『霊媒探偵』にA型が多いのは(38)で示しているように「ふと」1語が繰り返し使用されているためである。『透明人間』でも(39)のように「ふと」は使われているが, 使用頻度は非常に低い。

(38) 指紋は拭えるが, 手についた血は簡単には落ちない。その後, ふとした瞬間にデスクへと手をついてしまうなどして, そこに手形が残った。

(『霊媒探偵』)

(39) 快晴だった。潮風が心地よく, 寝不足も吹き飛びそうだった。深呼吸を一つ。ふと, 暗い船室に閉じ込められている弟とカイトの顔が頭をよぎる。

(『透明人間』)

次にAB型のオノマトペを見ていく。『霊媒探偵』ではABAB型のオノマトペが最も多く用いられており, 96例で約20%を占めている。次いでABリが61例で約13%, AッBリ型が46例で約10%を占めている。一方, 『透明人間』では『霊媒探偵』で2位であったAッBリ型が68例で約17%を占めている。次いで, ABAB型が52例で約14%, ABリ型が27例で約7%を占めている。このように順位の前

後はあるものの、1位から3位までを占めるオノマトペの割合は『霊媒探偵』と『透明人間』においてそれほど変わらないことが分かる。ABリ型は(40)の「さらり」以外にも「かちり、きりり、ぐりり、ぐるり、けりり、こくり、ごくり、じゃりり、しゅりり……など」があるが、「にやり」が最も多く11例使用されている。(41)のようなABAB型は使用パターンに最もバリエーションがある。(42)のようなAッBリ型は最も多く使用されているのが「すっかり」の19例、次が「べったり」の11例である。

(40) 少女の死を悼んだと思えば、さらりとそんな発言も交えていく。

(『霊媒探偵』)

(41) 「あ、いえ、その」なにかに気づいたのか、片手をぱたぱたと振って翡翠が言う。「先生とは、もう、お友達ですから！その、余計な気を遣わなくてもいいというか！」

(『霊媒探偵』)

(42) 「前略 わざわざ痕跡を拭ったあとで、一度ならず二度もうっかりして指紋を残すのは、流石に不自然すぎますから」

(『霊媒探偵』)

AッBリ型のオノマトペにおいて特徴的なのはその他のジャンルでは高頻度で上位にくる(43)、(44)のような「しっかり」と「はっきり」の使用頻度が低いことである。

(43) 露出した白い肩が、力なく落ちている。メイクもしっかりとしているので、遺体が発見される前から起きていたのかもしれない。

(『霊媒探偵』)

(44) 夫が息を呑むのが気配ではっきりと分かった。問題は、「探偵」と呼ばれているあの男が、「彼女」という言葉を口にしたことだ。

(『透明人間』)

以上、使用頻度が上位のものを主に見てきたが、次は使用頻度が低いもの、および造語などについて見ていくことにする。2.3でも見てきたように、陳(2023)によれば漫画では特殊拍の「ん/っ/ー」を語尾に組み合わせた形で使われることが多いとされている。しかし、ミステリー小説では「がんっ」のような特殊拍を重ねて使用するオノマトペは非常に少なく、わずか1例のみであった。漫画ではオノマトペが背景に描かれるため、絵の影響を受け、その絵にふさわしい音や様子を表現しようとするため、バリエーションが豊富になる。これに対して、小説では読者が自分の頭の中で想像することで補完できるため、一般的なオノマトペが使用されやすいと考えられる。浜野(2014)によれば「ん」語尾はある程度の時間的な間隔が感じられ、一方で「っ」は瞬間的で、一時的なイメージを付与する音象徴効果があるとされている。たとえば、(45)の「ドンッ」はある音が一瞬で終わるのではなく、短い時間であっても持続性があり、その後に動作が止まった印象を与えている。

(45) 次に、ドンッと低い音がした。重いものがぶつかる音だ。

(『透明人間』)

(46)～(49)のように使用頻度が低いオノマトペは数多くある。今回の調査で1例しか使われていないオノマトペの形態的パターンは、28種類にのぼる。

(46) 掃除を再開しようとしたとき、廊下の方から音が鳴った。ちーん、と凄い勢いで鼻をかむような音だった。

『霊媒探偵』

(47) 青い眼をした白人の女がなんの感慨もない虚無に等しい表情で香月のことを、じいっと見つめていた——

『霊媒探偵』

(48) 恥ずかしさより呆れの方が先だった。さっきまでのピリリとした緊張感がどこかへ吹き飛び、どうにも締まりのない空気になった。

『透明人間』

(49) 「さっさと解決してくれんと、女性はおちおち夜道も歩けないだろうよ」

『霊媒探偵』

オノマトペは造語性に富んでいると言われている。しかし、今回調査した2冊の小説から収集したオノマトペの用例を確認すると、辞書に載っていないオノマトペはわずか3語のみであった。(50)の「ぐぎゅるる」はAB型の「ぐぎゅ」に接尾辞である「る」を繰り返したものであると思われる。(51)はAB型のBの部分の反復させた形である。(52)はオノマトペ辞書には載っていないものの、web辞書に載っているため、新しく作られた造語ではないが、オノマトペの辞書には収録されていない。いずれにせよ、この二人のミステリー小説作者は新しい形のオノマトペを作る点においては消極的であるといえる。

(50) その時、ぼくのお腹が激しく鳴った。ぐぎゅるる、という遠慮のない音に、ぼくは恥ずかしくなってお腹を押さえる。

『透明人間』

(51) 「でも所長だって、わたしの耳なしでは謎が解けないでしょう」ぐぬぬぬ、と唸りながら、両者睨み合う。

『透明人間』

(52) (前略) つまみ食いするみたいに読み始めたのでしょうか？だからテヘペロって？

『霊媒探偵』

『霊媒探偵』では「とくとく」が(53)のような使い方で3回使用されているが、オノマトペ辞書には載っていない用法であった。本来の「とくとく」は、脈を打つ「とくとく」、液体が流れる「とくとく」、歩くときの様子の「とくとく」である。(53)のように「語る」ときの様子を描写する用法は辞書には載っていないため、意味的に考慮すると新しい用法としてカウントすべきものかもしれない。

(53) 歪な微笑と共にとくとくと語る翡翠を見下ろし、香月は啞然と呻く。

『霊媒探偵』

以上、オノマトペの音韻・形態的特徴について見てきた。使用頻度が上位のオノマトペは『霊媒探偵』および『透明人間』ともに似ている傾向にあった。そして、低頻度のオノマトペの形態的パターンが28種類と多いこと、ミステリー小説には漫画のように新しいオノマトペはあまり作られていないということがわかった。

#### 4.3. ミステリー小説に使われているオノマトペの統語的特徴

ここでは、ミステリー小説に使われているオノマトペの統語的特徴について見ていく。先行研究の記述によれるとオノマトペは副詞としての用法が最も多い。収集した用例がどのように使われているのか確認したところ、副詞的用法が 583 例と最も多く、収集した用例の約 72%がこの用法に該当している。次いで動詞として用いられたのが 127 例で全体の約 16%を占め、比較的頻繁に見られる傾向がある。このようにミステリー小説においてオノマトペは状況や感情の描写に多く用いられていることが分かる。オノマトペが品詞としてどのように用いられているのか、詳細を表 10 に示す。

表 10：オノマトペの使われ方

作品名	副詞	する/なる 動詞	形容詞 形容動詞	名詞	その他 (独立・引用等)	派生動詞 複合形
『霊媒探偵』	331	60	7	3	21	17
『透明人間』	252	62	6	2	23	14
合計	583	122	13	5	44	31

副詞的用法として用いられているオノマトペはほとんどが (54) のような様態副詞であり、(55) のような結果副詞、(56) のような程度副詞の使用例は非常に少なかった。

(54) バッグの前面には、「名探偵・櫻木桂馬、豪華客船からの脱出！」の文字がぎらぎらと躍っている。  
(『透明人間』)

(55) 戸棚の中に包丁を見つけたので、これを使って顔をズタズタに傷つけ、胸にもいくつか切り傷と刺し傷を作っておいた。  
(『透明人間』)

(56) だが、今回に限っては、これまでとは手法が遠すぎる。普段よりもずっと慎重を期する必要があった。  
(『霊媒探偵』)

料理雑誌で「べったり」は「ソースがべったり」などと使われているが、(57) のようにミステリー小説で「べったり」は主に「指紋」や「血」などを描写する際に使われる。扱う研究対象の題材によって描写する対象に違いがあることが分かる。

(57) 「前略 コンサートライトっていうのでしたっけ？その容れ物にまで血がべったりついていて、私もう卒倒しそうでした」  
(『透明人間』)

「する動詞」として用いられているオノマトペのうち、A 型から「する動詞化」されたのが 44 例、AB 型から「する動詞化」されたのが 78 例収集できた。影山 (2005, 2006)、浜野 (2014) で指摘しているように、「する動詞化」されたオノマトペは本来の「する動詞」と同様の振る舞いをしている。さらに (60) のように描写するものが「体、手、足、目」などの場合は「させる」形を用いることがより自然であるとしている。影山の調査では「させる形」と比べ、「する形」はわずか約 20%前後であった。

本研究で収集した用例は数に限りがあり、このような傾向はみられなかったが、「ぱちくり」に関しては4例中3例が「させる形」で用いられており、もう1例は(61)のように使われていた。

(58) 「前略 先生とわたしがいちゃいちゃしながら実験した通り、正面から凶器を巻き付ける際には、どうしても不審な動作になりがちで、普通だったら逃げるはずです。 後略」

(『霊媒探偵』)

(59) 「え?」「なにか、さっきから嫌な予感がするんです。胸が、ざわざわして……」

(『霊媒探偵』)

(60) 「え、ええっと、どういうことでしょうか」左陪席はつぶらな目をぱちくりとさせた。

(『透明人間』)

(61) 北野由里について訊ねると、琴音は眼鏡の奥の大きな双眸を、ぱちくりと瞬いて答えた。

(62) 思っていたよりもあどけない顔付きをしているが、すらりとした体軀はモデルのようで、細いリボンで胸を彩った紺色のワンピースを纏い、ハンドバッグと暗色の日傘を手に使っていた。

(『霊媒探偵』)

以下に示す(63)のように「する動詞化」するものと、(64)のように「なる」を後続させるものがある。ここで示している「カッと」はAッ型であるため、かならず助詞「と」を伴う必要がある。したがって、「カッとなる」、「カッとする」のように使われるが、この形態的パターン以外のABAB型やAッBリ型のオノマトペであれば「なる」と共起する際には助詞「に」を伴うのが普通である。

(63) 「前略 被告人も、そういう風に、ちょっとカッとしちゃっただけだと思いますよ 後略」

(『透明人間』)

(64) 「カッとなって殴りつけたのなら、殴った後、正気に返って救命行為を行うこともあります。後略」

(『透明人間』)

オノマトペは動詞を修飾する際、あるいは動詞的用法として用いられる際には助詞「と」を伴うもの、助詞「に」を伴うもの、何も伴わずに使われるものがある。本研究で収集した用例を確認したところ、助詞「と」を伴うものが最も多く、助詞「に」を伴うものは非常に少なかった。以下、表11に詳細を示す。

表 11: オノマトペと助詞

作品名	助詞の有無		
	助詞「と」(語)	助詞「に」(語)	無助詞(語)
『霊媒探偵』	321	0	68
『透明人間』	218	4	81
合計	539	4	149

(65) のように「と」を伴って様態副詞として使われるオノマトペが最も多いが、(66) のように「。」で文が切れた形で使われる場合、あるいは修飾する動詞が省略されて使われる場合もある。

(65) 扉が開いている隙にこっそりと入り込む。「教授、レポートの提出に伺いました」「ム。君かね。」

『透明人間』

(66) 刃先が、柔らかな肌を捉えて、一瞬で深く沈んでいく。ようやく、慣れてきた。綺麗に、あっさりと。深いところまで、貫く。

『霊媒探偵』

助詞「に」に関しては、(67)～(69)のように「に」を伴って結果副詞として使われるのが一般的である。助詞「に」を伴っていても(70)のように「ふい+に」は結果副詞として使われているわけではないことが分かる。

(67) 隣を見ると、美々香はガチガチに緊張していた。思わず笑いそうになるが、顔を引き締めて、上司としての威厳を保った。

『透明人間』

(68) 戸棚の中に包丁を見つけたので、これを使って顔をズタズタに傷つけ、胸にもいくつか切り傷と刺し傷を作っていた。

『透明人間』

(69) 「前略 びりびりに破られていたから、つぎはぎ状態になったが、時刻もばっちり確認出来たよ。」

『透明人間』

(70) かすかな揺れを感じる。地震とは違う揺れ。船の上だ。さっきまでいた客船の中。どこかは分からないが、ここは船内のどこかだ。ふいに、手首に温かな感触を感じた。体が震える。

『透明人間』

田守・スコウラップ(1999)および浜野(2014)で言及されている形容詞、形容動詞的用法も本研究での調査で確認できた。(71)、(72)に示しているように文末で使用されることも、名詞を修飾する形で使われることもある。「の／な」を介して名詞を修飾する(72)のようなものに関しては浜野(2014)でも指摘している通り、制限があるものもあるが、(73)のように「オノマトペ+した+N」と言い換えが可能になる。

(71) 「前略 足音が、パタ、パタという軽い音でした。スリッパの底部とフローリングの音なら、イメージにぴったりです」

『透明人間』

(72) 彼女の胃の部分には、その日の飲み会で食べたものが現在進行形で消化され、どろどろの液体となって漂っていた。

『透明人間』

(73) 二人で扉に耳をつける。ぼそぼそした声で聞き取れない。なんだ？何を話している？

『透明人間』

田守(2012)、深田(2013)などの研究によれば、広告、施設名、子供の絵本などでは名詞的用法が比較的現れやすい。しかし、ミステリー小説を研究対象としている本研究においては名詞的に使われるオノマトペは非常に少ない。名詞的に使用される際には(74)のように格助詞を伴って使われる。たとえば、「顔にぶつぶつができた」、「私のイライラはおさまらなかった」などのように使われる。

(74) わたしは胸に溜まるもやもやを言葉にした。「わたしたち、いいように利用されたみたいですね。」  
(『透明人間』)

本研究で確認できたオノマトペからの派生形には表 12 に示しているように主に 4 つのグループに分けることができる。

表 12: オノマトペから派生形されたもの

派生タイプ	語数	用例
—めく	7	きらめく, ざわめく, どよめく, ひらめく, ふためく, ゆらめく, よろめく
—ける	4	おどける, にやける, ぼやける, よろける
—つく	2	にやつく, ぎらつく
その他	1	にこやか

(75) ~ (78) に派生形で使われたオノマトペの用例の一部を示す。

(75) 「カットバックとして、初老の男性が何者かに撲殺される映像が流れる。机に突っ伏した男性の顔はぼやけており、映ったのも一瞬だった。」  
(『透明人間』)

(76) 「前略 わたしがお手洗いを借りるときによろけて、薬科さんにぶつかったのを憶えています？」  
(『霊媒探偵』)

(77) 「これまでの審理から考えてみても、ほとんど一日中ってことだ。ライブの長さなんて目じゃない……」6番が目をぎらつかせた。  
(『透明人間』)

(78) 5番はにこやかに応じた。目尻の下がった優しい顔立ちで、おっとりした男性である。  
(『透明人間』)

本研究で対象としているミステリー小説において複合名詞・形容詞に派生したものはわずか2例のみであった。(79)の「ずぶ濡れ」は「ずぶずぶにぬれる」から「ずぶぬれ」という複合形になり、名詞として使われるものであり、(80)は「ひよろひよろとながしい」が「ひよろながしい」という複合形になり、形容詞として使われるものである。

(79) 朝からの大雨がいまだに降り続いており、傘をさしてなお、足元がずぶ濡れになった。  
(『透明人間』)

(80) 私は思わず言った。ひよろ長い体形は似ているが、顔は似ても似つかない。「待ってください」と5番が制した。  
(『透明人間』)

以上、ミステリー小説に使われるオノマトペの統語的特徴について見てきた。ほとんどのジャンルでも同じ傾向にあるが、ミステリー小説においてもオノマトペは副詞として用いられるものも最も多いことが分かった。なお結果副詞、程度副詞として用いられるものは非常に少なく、ほとんどが様態副詞として使われていることが分かった。そして、副詞的用法以外の用法で使われているオノマトペの使用例も確認できた。派生形をはじめ、複合名詞や複合形容詞の使用例も少ないながら確認できた。

## 5. おわりに

本研究では、ミステリー小説に使われているオノマトペの使用傾向および使用実態について検討した。

オノマトペの使用頻度に関しては、ミステリー小説では1ページ（約700字）当たり、約1語の頻度で使われていることが確認された。『霊媒探偵』および『透明人間』の2つの小説に共通して使われるオノマトペはわずかに約15%に過ぎないことが判明した。今回の調査対象にしたミステリー小説において、オノマトペの文字表記には個人差があり、作家によっては片仮名表記をほとんどしない傾向もみられた。

オノマトペの音韻・形態的特徴に関しては、上位のオノマトペは『霊媒探偵』および『透明人間』で類似している傾向がある一方、低頻度のオノマトペは28種類もの形態的パターンが存在することが明らかとなった。また、ミステリー小説においては新しく作られるオノマトペは極めて少ないことが確認できた。

オノマトペの統語的特徴に関しては、ミステリー小説においても副詞として用いられるオノマトペが最も多いことが分かった。なお結果副詞、程度副詞として用いられるものは非常に少なく、ほとんどが様態副詞として使われている。副詞以外にも派生形、複合名詞、複合形容詞の用法も確認できた。

本研究では2冊の人気ミステリー小説のみを対象とした予備的調査であった。今後はさらに多くのミステリー小説からオノマトペを収集し、作家ごとの使用傾向や題材による傾向などについても考察していく必要がある。また、今回は詳細に触れられなかったが、オノマトペが修飾している動詞に関する統計的な分析やオノマトペと動詞との共起関係にも注目したい。

## 【参考文献】

- 小野正弘, 武田晃子, 川崎めぐみ.2021.「オノマトペ認定の差異とその基準」『日本語学会 2021 年度秋季大会ポスター発表』 予稿集:115-120.
- 赫揚.2017.「ファッション誌におけるオノマトペの特徴—料理誌との比較—」『一橋大学国際教育センター紀要』第8号: 57-67.
- 寛壽雄.2001.「変身するオノマトペ」『月刊言語—特集楽しいオノマトペの世界』8月号第30巻第9号大修館書店: 28-36.
- 影山太郎.2005.「擬態語動詞の語彙概念構造」『第二回中日理論言語学研究会』1-9.
- 影山太郎.2006.「擬態語動詞の統合構造」『人文論究』56-1, 83-101.
- 金田一春彦.1978.「概説」浅野鶴子編『擬音語・擬態語辞典』角川書店.
- 坂本真樹.2019.『五感を探るオノマトペ』共立出版株式会社.
- 須藤潤.2008.「音声的特徴から見た日本語感動詞の機能」大阪大学.博士論文.
- 隅田孝.2019.「オノマトペを用いた広告表現に関する研究」『四天王寺大学紀要』第67号: 295-314.
- 玉岡賀津雄, 木村幸子, 宮岡弥生.2011.「新聞と小説のコーパスにおけるオノマトペと動詞の共起パターン」『言語研究』139: 57-84.
- 田守育啓, スコウラップ, ローレンス.1999.『オノマトペ—形態と意味—』くろしお出版.
- 田守育啓.2012.「商品名および店名・施設名に利用されているオノマトペ」『人文論集』47: 49-70.
- 丹野眞智俊.2005.『オノマトペ《擬音語・擬態語》を考える: 日本語音韻の心理学的研究』あいり出版.
- 陳萍.2022.「BCCWJ と擬音表記における語末に現れるオノマトペ標識について: 組み合わせを中心に」『若手研究者フォーラム要旨集』5: 23-26.
- 角岡賢一.2007.『日本語のオノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』くろしお出版.
- 中里理子.2001.「明治後期の和語系・漢語系オノマトペ」『上越教育大学研究紀要』第2号: 547-562.

- 夏目房之助.2013.「絵本の中のオノマトペ」『オノマトペ研究の射程』ひつじ書房: 217-241.
- 浜野祥子.2014.『日本語のオノマトペ音象徴と構造』くろしお出版.
- 深田智.2013.「絵本の中のオノマトペ」『オノマトペ研究の射程』ひつじ書房: 183-199.
- 星野裕子.2014.「グルメ記事におけるオノマトペ」パネル発表『第18回 AJE ヨーロッパ日本語教育シンポジウム』パネル発表資料: 90-94.
- 吉崎英明.2023.「子供の歌におけるオノマトペ抽出の研究～議場後に焦点をあてて～」『リカレント研究論集』3: 72-81.
- 吉永尚.2019.「オノマトペの語形パターンに関する考察」『園田学園女子大学論文集』53: 75-81.
- 渡辺知恵美, 中村聡史.2012.「オノマトペを用いた料理レシピ検索システム「オノマトペロリ」におけるオノマトペによる料理レシピ検索ランキング」『2012年度人工知能学会全国大会』第26回: 1-4.
- VUONG THI BICH LIEN.2013.「若年層における感動詞の動態研究」山口大学.博士論文.

#### 【辞書】

- 浅野鶴子編.1978.『擬音語・擬態語辞典』角川書店.
- 阿刀田稔子・星野和子編.1995.『擬音語擬態語使い方辞典』創拓社.
- 天沼寧編.1985.『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版.
- 小野正弘.2007『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館.
- 曹金波.2008.『標準日本語擬声語・擬態語』大連理工大学出版社.
- 飛田良文・浅田秀子編.2002.『現代擬音語・擬態語用法辞典』東京堂出版.
- 山口仲美編.2003.『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』講談社.

#### 【使用した小説】

- 『medium 霊媒探偵城塚翡翠』相沢沙呼 (kindle 版・紙版) 2019.講談社.
- 『透明人間は密室に潜む』阿津川辰海 (kindle 版・紙版) 2022.光文社.

執筆者連絡先: huanghui@hotmail.co.jp

原稿受理: 2023年12月31日